

2018年度（平成30年度）事業報告

< 法人全体の活動報告 >

1. 理事会、評議員会の開催

2018年度の理事会及び評議員会を以下のように開催しました。

- 5月30日 ― 第189回定時理事会 於：南海福祉事業会 法人本部会議室
平成29年度事業報告、同決算案審議、会計監査人の報酬改定、評議員選任・解任委員会委員の退任・選任、看護学科設置に伴う一般競争入札、図書・事務機器等購入先選定、法人・施設の規程・規則改正、及び報告事項として、理事長職務執行、法人創立50周年記念行事
- 6月21日 ― 第101回評議員会 於：日本綿業会館
平成29年度事業報告、同決算報告、法人創立50周年記念行事につき報告
- 6月21日 ― 臨時理事会 於：日本綿業会館（上記評議員会終了後）
看護学科設置に伴う標本・模型・器械器具契約締結、同事務機器・パソコン購入リース契約締結、Wifi設置業者との契約、法人・各施設規程規則改正、及び理事長職務執行状況につき報告
- 9月13日 ― 臨時理事会 於：南海福祉事業会 法人本部会議室
フィオーレ南海給食委託会社変更、南海福祉専門学校外国人留学生への減免奨学金制度、及び理事長職務執行状況、看護学科進捗につき報告
- 12月13日 ― 第190回定時理事会 於：南海福祉事業会 法人本部会議室
定款一部変更、平成30年度補正予算案、羽衣地域子育て支援センター運営主体と名称、同売買契約締結、同内装施工業者選定、学校通信課程一部指定取り消し、入学者紹介及び割引制度の改定、学校学則・規程一部改正、及び報告事項として、平成30年度中間事業報告、理事長職務執行状況、看護学科進捗
- 1月22日 ― 第102回評議員会 於：日本綿業会館
定款一部変更、及び平成30年度中間事業報告、同補正予算、羽衣地域子育て支援センター進捗状況、看護学科進捗状況について報告
- 3月7日 ― 第191回定時理事会 於：南海福祉事業会 法人本部会議室
2019年度事業計画、同予算審議、法人主要人事、役員退職慰労金、フィオーレ南海空調機入替、学校看護学科追加工事費、学校入学定員変更、法人・施設規程・規則一部改正、及び報告事項として、理事長職務執行状況、南海福祉専門学校学則微修正、看護学科進捗状況

2. 法人幹部会の開催

- 一 参加者：理事長、事業部長、法人管理部部長、総務主任、および各施設施設長 計12名
 - 一 開催場所：南海福祉専門学校 2階 福祉研究所
 - 一 議題：事業部および各施設の前月の月例報告とともに、以下に記載の課題などについて報告、および協議を行いました。
-
- 4月度 — 4月24日
新年度の各事業部・各施設の重要課題3点について具体的な施策、50周年記念式典・祝宴の準備、賞与支給月数の推定、社会福祉法人としての公益活動の集約
 - 5月度 — 5月21日
平成29年度決算について、前年度対比、期初予算比、及び変動要因分析、各施設の職員体制整備状況、50周年記念誌発送及び記念品手配
 - 6月度 — 6月18日
理事会報告及び評議員会の開催準備、各施設の職員体制整備状況のレビュー、職員採用の為の効果的な活動・広報策、職員の離職防止の施策、補助職員の起用及び省力化の推進、大阪北部地震の影響と今後の対策
 - 7月度 — 7月17日
事業部・各施設の主要課題3点についての第一四半期の進捗、50周年記念式典及び記念品等の準備進捗確認、法人レベルのメンタリング研修の実施計画
 - 8月度 — 8月20日
職員体制整備状況、主要課題の進捗確認、50周年記念式典・祝宴準備の最終確認、感染症など危機管理状況、施設・設備の改修・更新にかかる進捗状況
 - 9月度 — 9月18日
臨時理事会の実施、台風21号による被害状況、障がい者雇用推進、人事・雇用管理状況及び効果的な採用活動、フィオーレ南海の一部事業休止等による影響
 - 10月度 — 10月22日
南海福祉研究所の運営、法人合同研修会の開催についての決議、上半期終了時点での予算達成見通し、最低賃金改定への対応、自然災害に対する備えなどの具体策、紹介・派遣業者との契約にかかる注意事項
 - 11月度 — 11月21日
補正予算策定にあたり、期初予算からの乖離及び原因等、教育事業部及び高齢者施設事業部の業績分析と改善策、台風被害に対する保険求償状況のレビュー、冬賞与の査定
 - 12月度 — 12月19日
理事会実施報告、評議員会開催、各事業部の最重要課題への対応状況、人事・雇用管理にかかる状況、新元号への対応（西暦に統一）、法人レベルの中堅職員研修の計画
 - 1月度 — 1月25日
理事長年頭所信、新年度人事案、新年度予算の見通し、新年度の職員体制整備への対応、今期実施予定の補修、改修などの進捗状況

- 2月度 — 2月20日
理事会・評議員会開催予定及び提議すべき議案の整理・準備、職員の離職対策と望ましい職場環境の実現に向けた施策案検討、新年度事業計画策定
- 3月度 — 3月18日
定時理事会開催、2019年度期初予算及び各事業部の達成の為の具体策、新年度職員体制の整備、決算作業予定及び各施設への要請事項、各施設の地域貢献活動の集約

3. 法人全体の行事、研修会等の開催

- 「メンタリング研修」 — 7月14日（土）9時～16時 於：学校2階教室
各施設の主任、副主任クラス 計17名が参加。「メンタリング」というスキルを習得して、現場職員との面談時の本音の引き出し方、望ましいコミュニケーション、職場を率いる心構えとノウハウを身に着ける為の研修を実施。外部講師に研修を委託し、グループワーク等を含めた参加型の研修を実施した。

- 「50周年記念式典・祝宴」 — 9月2日（日）11時～14時 於：学校講堂
学校講堂において、来賓44名、職員186名 計230名が参加し、盛大に執り行われた。阪口高石市長を始め5名の来賓より祝辞を戴き、5名の職員に対する永年勤続表彰、法人・各事業部の歩みの紹介、及び祝宴では、各事業部が自前の演芸を披露し、和やかな雰囲気の中で、「職員による、職員の為の式典・祝宴」が相応に実現できた。

- 「法人合同研修会」 — 11月30日（金）18時30分～20時40分 於：学校講堂
法人職員155名が参加。看護学科新設にちなみ、看護教育の在り方、法人における医療・看護の位置づけなどをテーマに、法人職員全体の看護にかかる認識を深めることを目的として企画。看護教育支援協会代表理事の講演、看護学科の概容紹介、法人の現場で働く看護師たちを含めたシンポジウム、を実施した。

- 「中堅職員研修」 — 3月23日（土）9時～16時 於：学校教室
各施設及び法人本部の中堅・ベテラン職員 計29名が参加。外部講師に研修を委託して、講義、事前課題、個人ワーク、グループワークを実施した。組織が中堅職員に求めるもの、職場での位置づけと影響力の大きさなどの認識を深める事により、現場の中核としての自覚と活躍を期待したい。

4. 期初の事業計画の実施、および進捗、成果など

① 南海福祉専門学校 既存2科の業績回復と看護学科の設立

- 既存2科(児童福祉科・介護社会福祉科)業績の決定的な要因となる入学者数の確保について、従来の主要高校への出張講座などの取り組み、ネット広報の強化による社会人入学者の増加、及び介護福祉士コースへの留学生の受け入れ等の施策がある程度の成果に繋がり、2019年4月の入学者数は、既存2科で20名増加(合計74名)。また、大阪府より受託した訓練事業は、保育、介護の合計で1名増加し(合計20名)、既存2科の通学入学者数は前年実績比21名増加した(合計94名)。
- 看護学科は大阪府当局による数度の実地調査をクリアーし、また新校舎建設及び各種備品類の調達・搬入なども予定通り実施され、支障なく開設に至った。看護学科の学生募集については、新設校としての不安はあったが、2回の入学試験に対し62名が受験し、最終的に定員40名の入学者が確定した。
- 既存学科の入学者数の増加、及び看護学科の無事な立ち上げにより、2019年度の学校業績は既存学科がほぼ収支均衡に達し、看護学科の立ち上げ当初に想定される支出超過分、約20百万円の赤字に改善される見通し。

② 高齢者施設事業部の自立化を完遂し、成長軌道に乗せる。

- 人手不足により期初に予定した補助金の加算条件を満たせなかった事、積極的な営業活動により利用者増加を狙ったが十分な成果が得られなかった事、更に、フィオーレ南海に於いて夏場の空調機の故障、及び台風による停電の為に、一部事業が休止に追い込まれた事等により、両施設ともに予算を大幅に下回る業績結果となった。
- 人手問題を抱える中、加算条件を満たして事業収入の拡大につなげる事は難しい状況であったが、利用者獲得策はブルーム北加賀屋に於いて着実に実施され、利用者増加が見込まれる。また、フィオーレ南海では特養・短期利用ともに空床防止の為にリアルタイムの情報共有とともに、全職員が待機者などへの勧誘活動を開始しており、当期終盤よりやや実効が上がりつつある。
- 職員採用に関して、従来からの広報策に加えて、職員による人脈ルートでの勧誘、及び近隣地域の無資格・無経験者への研修を実施して補助業務に起用するなどの施策を開始しており、期待が持てる。
- 自立化には程遠いが、当期の反省をもとに、各事業ごとの収支効率を分析して運用の効率化を図るとともに、人手問題の改善、利用者獲得、補助金の加算獲得、稼働率の改善などについて、具体的な施策を開始しており、2019年度には両施設の黒字予算の達成を必達目標とする。

③ 保育事業部の業績基盤を強化し、新規事業及び子育てにかかる地域ニーズへの対応を拡充する。

- 園児数の増加及び処遇改善制度の運用によって、事業収入が増加する一方、人件費及びその他の支出の抑制を図った結果、期初予算を大幅に上回る業績を達成できた。
- 園児数確保、経費抑制等の経営努力が成果につながっているが、非常勤職員の退職、正職員の出産・育児休暇等への埋め合わせが十分にできず、人手不足の状態が続いている。新卒者の採用を増やすとともに、法人職員の人脈を使った勧誘及び地域の有資格者の採用などで、職員体制の整備に努めている。
- 地域の子育てにかかるニーズへの対応として、高石市内で3拠点目の地域子育て支援センターの新設（9月オープン予定）とともに、高石市の病児保育事業の保育を担当している。また5つの保育施設では、各自治体の要請に答えて、障害のある園児や外国人園児の受け入れなども積極的に取り組んで、地域の保育・子育てに貢献度を高めている。

④ 職員体制の安定化と業務の効率化

- 安定した職員体制を確立、維持する為に、新規採用への多角的な活動を進めるとともに、風通しの良い和やかな職場環境づくり、働き甲斐や満足のかゆく処遇等職場としての魅力度アップなどによって、職員の離職を抑制する対策を実施している。同時に、職員の資質、スキルの改善の為に、外部研修を積極的に実施するとともに、施設内、事業部内、及び法人としての様々な研修や合同会議等を開催している。
- また、職員負担の軽減の為に、業務の効率化、省力化も、各事業部の事情に即した方策を練って実践している。高齢者施設事業部の介護機器の導入、無資格者の周辺業務への起用、保育事業部のICT化の推進、教育事業部の各種データの集積・配布のシステム化等が既に進行しており、更に効率化、省力化に向けた検討を進め、実現してゆきたい。

⑤ 法人の財務基盤の強化、及び中期的な大規模改修に備える。

- 当期は看護学科の建設、設備・備品の調達、等支出の大幅増加による学校の赤字業績等により、法人全体の財務基盤を大きく毀損する事になった。過去の積立及び手元流動性により、借り入れもなく、自己資金で運営ができていたが、法人全体としての財務基盤の復旧が重要課題である。
- 学校の既存学科の運営にかかる赤字払拭、看護学科の順調な立ち上げによる事業収入の拡大、高齢者施設事業部の黒字化、及び保育事業部の運営効率の改善による収益拡大等により、各事業部、及び法人の業績を急速に改善し、2019年度以降数年をかけて財務基盤の強化を図る。
- 高齢者施設事業部では、懸案のフィオーレ南海の空調機入れ替え工事を進めており、また、数年後には、フィオーレ南海の大規模改修に着手する必要がある、それらに向けて、事業部としての体質強化、改修資金の積み立てを急ぐ必要がある。

5. 新たな事業の開始もしくは計画・企画等

- 現状、既に理事会で承認された「羽衣地域子育て支援センター」の新設案件のみ。同センターは6月から内装、外構工事を開始し、9月2日（月）にオープン予定。主軸の職員2名が高石市の子育てにかかる会議や行事などに参加するとともに、法人の2つの既設センターでの実地研修を行っている。

6. 主な法令及び制度改定などへの対応

○ 保育士等処遇改善制度の運用改定

平成29年度より導入された処遇改善Ⅱを含む運用に関し、平成29年度と同様の運用ルールで、月次及び期末調整の手当支給を行った。人事院勧告に沿って当期分はさらに給付額が増額され、それらは3月の職員への期末手当に加算して支給を実施した。職位・役割に応じたキャリアアップ研修は2019年度に必要な受講を完遂すべく、職員シフトを調整しながら前倒しで進めている。

○ 介護保険法改正

リハビリテーションの積極的な活用による介護予防への取り組み、看取り体制の強化に伴う看護体制の充実や医療介護連携推進への介護報酬加算増額など、地域包括ケアシステム実現への推進策が実施されたところである。高齢者各施設においては、制度が目指す地域の実現に向け、現有する機能の強化に加え、加算条件の整備を検討している。また、訪問介護での生活支援の定義変更も行われ、自立支援への取り組みが強く求められた点に関して、訪問介護以外の事業部門も含め、施設内研修などで職員間の周知を図っている。

○ 介護福祉士資格の在留資格制度等、外国人材の就労にかかる法令改定

介護現場での人材不足に対し、在留資格「介護」に対応した特定技能制度が2019年度より開始となり、学校として、介護施設との連携による留学生8名の受け入れを実現した。今後、介護業界の強いニーズにより、さらに受け入れ人数が増加する可能性が高いと考えている。高齢者施設事業部および各施設では外国人材の受け入れは行っていないが、各施設の人材ニーズに応じた外国人材の活用可能性について、従前の技能実習制度等も含めた制度理解に努め、受け入れについて前向きな検討を進めている。